



## 2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月12日

上場会社名 株式会社バイキューブ 上場取引所 東  
 コード番号 3681 URL https://jp.vcube.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 間下 直晃  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 山本 一輝 TEL 03 (5475) 7250  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト・報道機関向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年12月期第2四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		調整後 EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	6,610	9.7	1,270	△17.9	673	△34.1	633	△32.5	519	△42.9
2021年12月期第2四半期	6,026	84.5	1,547	125.3	1,021	294.2	938	252.3	910	115.7

(注) 包括利益 2022年12月期第2四半期 1,633百万円 (74.2%) 2021年12月期第2四半期 937百万円 (225.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	21.42	21.12
2021年12月期第2四半期	37.57	36.48

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期第2四半期	17,834	6,538	36.2	266.15
2021年12月期	15,259	5,100	33.1	207.92

(参考) 自己資本 2022年12月期第2四半期 6,459百万円 2021年12月期 5,046百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		調整後 EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,900	20.9	3,380	27.5	2,000	48.0	1,900	54.2	1,500	13.3	61.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期2Q	24,737,400株	2021年12月期	24,737,400株
② 期末自己株式数	2022年12月期2Q	466,443株	2021年12月期	466,443株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期2Q	24,270,957株	2021年12月期2Q	24,233,802株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	5
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更) .....	11
(会計方針の変更) .....	11
(セグメント情報等) .....	12
(企業結合等関係) .....	13
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	6,026,108	6,610,479	584,371	9.7
営業利益	1,021,288	673,221	△348,067	△34.1
経常利益	938,506	633,642	△304,864	△32.5
親会社帰属四半期純利益	910,421	519,818	△390,603	△42.9

当第2四半期連結累計期間においては、バーチャル株主総会の運用本格化に伴う配信件数の増加や、企業・公共空間における防音型コミュニケーションブース「テレキューブ」の設置販売が伸長したこと、及び2021年6月から当社グループの連結子会社となったXyvid, Inc.（以下、Xyvid）が当期は期首から連結となったことにより、売上高は前年同期比で9.7%増の6,610,479千円となりました。

一方で、エンタープライズDX事業における自社製品比率の低下に伴う利益率低下や、イベントDX事業における製薬業界における小規模配信の縮小、サードプレイスDX事業における「テレキューブ」に関する広告宣伝費用の発生により、営業利益は前年同期比34.1%減の673,221千円となりました。

営業外損益及び特別損益においては、為替相場が円安基調にある中でグループ間の資金決済により為替差損13,101千円（前年同期比10.2%減）を計上したほか、持分法による投資損失11,610千円（前年同期比39.9%減）を計上いたしました。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

### I. エンタープライズDX事業

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	2,423,116	2,258,418	△164,698	△6.8
セグメント利益	461,192	377,480	△83,711	△18.2

エンタープライズDX事業は、主に企業や官公庁等を対象に、社内外のコミュニケーションにおけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を支援するサービスを提供しております。

具体的には、自社開発の汎用Web会議システム「V-CUBE ミーティング」や「Zoom」の販売のほか、ディスカッションテーブル「V-CUBE Board」などの災害対策ソリューションやウェアラブルデバイスなど、企業向けのリモートコミュニケーションプロダクトを提供しております。また、顧客企業において映像組み込み型サービスの開発を容易にする「V-CUBE Video SDK」の提供やサービス開発及び運用支援をすることで、顧客企業におけるソリューション開発を支援しております。

当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は、前年同期比6.8%減の2,258,418千円となりました。これは前第2四半期連結累計期間に見られた、緊急退避的にリモートワークを行った企業によるWeb会議システムの需要が一巡したためであります。また、注力事業ではなくなったことによる自社製品比率の低下に伴う限界利益率の緩やかな減少によってセグメント利益率は19.0%から16.7%に減少し、セグメント利益は前年同期比18.2%減の377,480千円となりました。

## II. イベントDX事業

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	2,606,207	2,862,687	256,480	9.8
セグメント利益	552,111	370,193	△181,918	△32.9

イベントDX事業は、様々な分野におけるイベント、セミナーのリモート化を支援する事業であります。

具体的には、Webセミナー配信サービス「V-CUBE セミナー」や「EventIn」などのセミナー配信プロダクトを提供するほか、イベント配信に係る運用設計、当日の配信サポートや後日のイベントデータ解析などの運用支援サービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は、前年同期比9.8%増の2,862,687千円となりました。これはバーチャル株主総会が本年度より運用が本格化し、開催が集中する6月の実施件数が昨年を上回ったことと、2021年6月から当社グループの連結子会社となったXyvidの連結対象期間が伸びたためであります。一方で、前期において効率的なサービス提供体制を構築していた製薬業界向け小規模配信事業の縮小、並びに米国におけるオミクロン株の流行による配信イベントの延期とその後の流行の鎮静化により発生した急速なリアル回帰によりXyvidの業績が低下し、それに伴いのれん償却額の負担が相対的に重くなったことから、セグメント利益は前年同期比32.9%減の370,193千円となりました。

## III. サードプレイスDX事業

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減	増減率 (%)
売上高	996,784	1,489,373	492,588	49.4
セグメント利益	327,268	272,661	△54,607	△16.7

サードプレイスDX事業は、自宅や職場とは異なるサードプレイス（第3の場所）の提供や運用支援を行うことで、昨今日本に浸透しつつあるテレワークを1つのワークスタイルとして定着させることを目的とする事業であります。

具体的には、企業及び公共空間への防音壁コミュニケーションブース「テレキューブ」の提供、公共空間におけるワークブースの管理運営システムの開発、「テレキューブ」において提供する関連サービスの開発を行っております。

当第2四半期連結累計期間では、セグメント売上高は前年同期比49.4%増の1,489,373千円となりました。これは、テレワークの浸透に伴って企業及び公共空間でのセキュアなワークブースの需要が増加したことにより販売件数が増加したことによるものであります。

また、セグメント利益は前年同期比16.7%減の272,661千円となりました。これは、第1四半期連結累計期間においてテレビ及びWeb媒体を利用した広告宣伝活動を実施したためであります。

(2) 財政状態に関する説明

(単位：千円)

	前連結会計年度	当第2四半期 連結累計期間	増減
資産	15,259,020	17,834,842	2,575,821
負債	10,158,169	11,296,409	1,138,240
純資産	5,100,851	6,538,432	1,437,581

①資産

当第2四半期連結会計期間末において、資産残高は前連結会計年度末比2,575,821千円増の17,834,842千円となりました。これは、6月のバーチャル株主総会及び大型配信案件の実施により売上高が伸長したことで売掛金残高が増加したこと、前期末に一時的に減少させていた借入金等のポジションを再度増額したことにより現金及び預金の残高が増加したこと、及び為替レートが円安方向に動いたことで海外子会社の円換算後ののれん残高が増加したことによるものであります。

②負債

負債残高は、前連結会計年度末比1,138,240千円増の11,296,409千円となりました。これは前期末に一時的に減少させていた借入金等のポジションを再度増額したことにより借入金残高が増加したためであります。

③純資産

昨年末と比べて為替レートが大幅な円安となったために為替換算調整勘定が増加したこと、及び親会社株主に帰属する四半期純利益519,818千円の計上により利益剰余金残高が増加したことで、純資産残高は前連結会計年度末比1,437,581千円増の6,538,432千円となりました。この純資産増加の影響により、自己資本比率は36.2%（前連結会計年度末は33.1%）に増加いたしました。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,198,326	1,063,525	△134,801
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,180,808	△1,090,123	△2,090,685
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,981,936	829,782	△1,152,153
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,835,427	2,763,497	△71,930

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により得られた資金は前年同期比134,801千円減の1,063,525千円となりました。これは主に前年同期と比較して営業利益が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果支出した資金は1,090,123千円となりました。前年同期においては、配信スタジオの新設や子会社取得による支出により減少資金額が高くなっておりましたが、これらの一時的支出が解消したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果得られた資金は829,782千円となりました。これは主に、前期末に一時的に減少させていた借入金等のポジションを再度増額したことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期の通期連結業績予想につきましては、2022年2月24日公表の連結業績予想から変更しておりません。

2. 継続企業の前提に関する重要事象等

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,823,797	2,763,497
受取手形及び売掛金	1,728,357	1,935,857
前渡金	49,156	48,550
その他	621,147	717,069
貸倒引当金	△200	△20,896
流動資産合計	4,222,259	5,444,078
固定資産		
有形固定資産	1,694,812	1,734,371
無形固定資産		
ソフトウェア	1,704,740	2,029,651
ソフトウェア仮勘定	661,894	868,919
のれん	3,759,122	4,246,943
その他	62	62
無形固定資産合計	6,125,820	7,145,577
投資その他の資産		
投資有価証券	273,208	371,314
関係会社株式	307,569	350,285
敷金及び保証金	305,460	349,452
長期貸付金	48,755	50,602
繰延税金資産	1,651,506	1,761,447
長期前払費用	82,102	63,267
その他	548,418	565,444
貸倒引当金	△894	△999
投資その他の資産合計	3,216,127	3,510,814
固定資産合計	11,036,760	12,390,763
資産合計	15,259,020	17,834,842



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	546,312	362,715
短期借入金	1,642,912	3,042,889
1年内返済予定の長期借入金	512,980	1,755,860
契約負債	882,928	1,019,028
賞与引当金	104,119	94,340
未払法人税等	51,897	44,964
その他	837,834	1,032,955
流動負債合計	4,578,983	7,352,753
固定負債		
長期借入金	4,828,100	3,293,300
リース債務	496,941	395,475
資産除去債務	245,219	245,350
その他	8,925	9,529
固定負債合計	5,579,185	3,943,656
負債合計	10,158,169	11,296,409
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	92,190	92,190
資本剰余金	2,831,834	2,831,834
利益剰余金	2,609,803	2,935,454
自己株式	△794,757	△794,757
株主資本合計	4,739,070	5,064,721
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,380	48,650
為替換算調整勘定	299,904	1,346,321
その他の包括利益累計額合計	307,284	1,394,972
新株予約権	2,160	2,160
非支配株主持分	52,336	76,578
純資産合計	5,100,851	6,538,432
負債純資産合計	15,259,020	17,834,842

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上高	6,026,108	6,610,479
売上原価	3,149,202	3,524,978
売上総利益	2,876,905	3,085,501
販売費及び一般管理費	1,855,616	2,412,279
営業利益	1,021,288	673,221
営業外収益		
受取利息	984	1,702
受取保険金	550	1,670
助成金収入	6,782	5,536
投資有価証券評価益	6,057	—
その他	8,552	2,257
営業外収益合計	22,926	11,167
営業外費用		
支払利息	15,004	22,578
為替差損	14,592	13,101
支払手数料	16,349	229
地代家賃	31,073	2,984
持分法による投資損失	19,319	11,610
その他	9,366	242
営業外費用合計	105,707	50,746
経常利益	938,506	633,642
特別損失		
固定資産除却損	1,026	759
リース解約損	—	8,564
訴訟和解金	—	7,510
その他	1,010	630
特別損失合計	2,037	17,464
税金等調整前四半期純利益	936,469	616,177
法人税、住民税及び事業税	15,894	35,248
法人税等調整額	4,477	35,378
法人税等合計	20,371	70,626
四半期純利益	916,098	545,550
非支配株主に帰属する四半期純利益	5,676	25,731
親会社株主に帰属する四半期純利益	910,421	519,818

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	916,098	545,550
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,182	41,270
為替換算調整勘定	11,170	1,046,417
その他の包括利益合計	21,352	1,087,687
四半期包括利益	937,450	1,633,238
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	931,883	1,608,995
非支配株主に係る四半期包括利益	5,567	24,242

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	936,469	616,177
減価償却費	476,540	437,818
のれん償却額	49,260	156,230
持分法による投資損益 (△は益)	19,319	11,610
投資有価証券評価損益 (△は益)	△6,057	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	726	20,802
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△133,532	△20,047
受取利息及び受取配当金	△984	△1,702
支払利息	15,004	22,578
為替差損益 (△は益)	14,592	13,101
売上債権の増減額 (△は増加)	74,160	△137,176
前渡金の増減額 (△は増加)	84,817	606
仕入債務の増減額 (△は減少)	24,581	△191,642
前受金の増減額 (△は減少)	86,424	120,575
前払費用の増減額 (△は増加)	△141,237	△186,221
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△161,594	69,056
その他	△99,401	195,113
小計	1,239,091	1,126,879
利息及び配当金の受取額	10,729	2,818
利息の支払額	△13,692	△22,711
法人税等の還付額	88	—
法人税等の支払額	△37,890	△43,461
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,198,326	1,063,525
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△545,764	△220,913
無形固定資産の取得による支出	△740,490	△732,918
関係会社株式の取得による支出	△133,000	△50,000
投資有価証券の取得による支出	△52,929	△23,481
敷金及び保証金の差入による支出	△437	△45,888
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,675,510	—
その他	△32,675	△16,920
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,180,808	△1,090,123
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	625,050	1,399,977
長期借入れによる収入	3,075,908	—
長期借入金の返済による支出	△1,243,070	△291,920
株式の発行による収入	27,000	—
自己株式の取得による支出	△299,982	—
配当金の支払額	△95,591	△190,988
リース債務の返済による支出	△107,378	△87,285
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,981,936	829,782
現金及び現金同等物に係る換算差額	63,388	136,514
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	62,842	939,699
現金及び現金同等物の期首残高	2,772,585	1,823,797
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,835,427	2,763,497

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)を当第1四半期連結会計期間の期首より適用したことにより、当第1四半期連結会計期間の期首時点における流動負債の「前受金」882,928千円を流動負債の「契約負債」に組み替えております。また、前連結会計年度における流動負債の「前受金」882,928千円を流動負債の「契約負債」882,928千円に組み替えております。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)を第21期の期首より早期適用しているため、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える金額的影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンタープライズDX事業	イベントDX事業	サードプレイスDX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,423,116	2,606,207	996,784	6,026,108	—	6,026,108
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,423,116	2,606,207	996,784	6,026,108	—	6,026,108
セグメント利益	461,192	552,111	327,268	1,340,572	△319,284	1,021,288

(注) 1. セグメント利益の調整額△319,284千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「イベントDX事業」の区分において、Xyvid, Inc. の株式を取得し、連結の範囲に含めております。

なお、当該事項によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては1,548,224千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンタープライズDX事業	イベントDX事業	サードプレイスDX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,258,418	2,862,687	1,489,373	6,610,479	—	6,610,479
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,258,418	2,862,687	1,489,373	6,610,479	—	6,610,479
セグメント利益	377,480	370,193	272,661	1,020,335	△347,114	673,221

(注) 1. セグメント利益の調整額△347,114千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

2021年6月3日に取得したXyvid, Inc. との企業結合について第1四半期連結会計期間まで暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間において確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴うのれんの金額に修正は生じておりません。なお、のれんの償却期間は15年であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。